



平成29年10月16日発行
熊本県立湧心館高等学校

※出典：首相官邸ホームページ→防災の手引き～いろんな災害を知って備えよう～(http://www.kantei.go.jp/jp/headline/bousai/index.html)

竜巻 (つむじかみ)

竜巻の時はどのように行動したらいいの？

竜巻が発生したときには、建物などの被害は防げませんが、身の安全を守ることはできます。屋外にいる場合は頑丈な建物などに避難し、屋内にいても窓ガラスには近づかず、一階の丈夫な机の下などで身を小さくして頭を守ってください。

竜巻は短時間に猛スピードで様々なものを巻き上げながら、建物などに甚大な被害を与えます。すぐに身を守るための行動をとってください。



津波

津波ではどのような災害が起こるの？

東日本大震災では、押し寄せる津波が当初予測された数値よりも遙かに高い例が多くありました。地震によって発生する津波の全てを正確に予測する事はできず、人的被害を免れた多くの例は、可能な限り早く高くへ逃げるという津波襲来時の避難の原則に従ったケースでした。

地震による大津波の被害は「波」という言葉から想像するイメージからは程遠いものです。街全体が津波にのみこまれ水の下に沈んだケース、家は流され、バスや電車、大型船が海側から打ち上げられたケース、20m以上の高台に避難していたのに背後から回り込んだ波に流されたケース、津波が地形を駆け上がり発表された津波の高さ以上に達したケースなどもあります。

また、津波は一度だけでなく複数回にわたり襲来し、第一波より第二波や第三波など後から来襲する波の方が高いケースもあります。第一波が引いた後、家に戻り、被害に遭われた方もいます。いったん波が引いても、津波警報が解除されるまでは避難を継続して下さい。

そして、発表された津波の到達予想時刻を過ぎて津波が到達しなかった場合も、避難は継続して下さい。到達予想時刻はあくまでも目安であり、実際の到達時刻は到達予想時刻から前後する可能性があります。

津波の時はどのように行動したらいいのでしょうか？



- 強い揺れや弱くても長い揺れを感じたら、また地震を体で感じなくても、「津波警報」等を見聞きしたら、いち早く海岸から離れ、可能な限り高い場所へ避難してください。



- 海水浴等により海岸付近にいる人は、「津波注意報」でも避難が必要です。海からあがる、海岸から離れるなど、すぐに避難を開始してください。



- 避難をする時は、近くの高台や津波避難タワー、津波避難ビルなどに向かってください。

- 第一波の引いた後に家に戻り第二波にのみこまれ被害に遭ったケースや、余震により再度津波が発生するケースもあり、警報・注意報が解除され安全が確認されるまでは決して被災地域には立ち入らないでください。



もしものために「津波標識」の確認を！
津波の危険がある場所には、津波が来襲する危険があることを示す「津波注意」のほか、津波避難場所や津波避難ビルを示す津波標識が設置されています。万一に備え、海の近くにいるときには必ず確認しておきましょう。



- 津波の災害は人の想像を絶する規模であり、その想像を超えた災害から身を守るためには、日頃から津波に関する情報を収集したり、津波ハザードマップなどで家の周りの安全な避難場所を確認しておくことが必要です。

- 津波は想像を超える速さ、あるいは想像を超える場所からやってくることを認識しておきましょう。